

行幸啓誌

広報よろん 特別号



与論町

天皇皇后両陛下 鹿児島県地方事情御視察

平成 29 年 11 月 16 日～ 18 日

天皇・皇后両陛下 与論空港御到着

こどもたちの歓声と 大島紬でお出迎え



初めて与論島に降り立たれた天皇・皇后両陛下



空港で歓迎を受ける両陛下



こどもたちがお出迎え



雨を考慮し、特例のバスにて移動

天皇陛下は譲位の意向を示された平成28年8月、島々への旅を「象徴的行為として、大切なもの」と表現された。その翌年、平成29年11月16日～18日、2泊3日の日程で、天皇・皇后両陛下は鹿児島県の離島「屋久島」「沖永良部島」「与論島」を巡られた。その移動距離は3273キロにも及ぶ。「与論島」へのご訪問は平成24年にも検討されていたが、陛下の心臓手術などのために取りやめられた経緯があり、与論島民の5年越しの願いが叶ったと言えるだろう。

身を乗り出して 歓迎に応えるお姿も

平成29年11月17日

与論島では数日前からこの日に備え、厳重な警備態勢が敷かれ、普段とは違う島の雰囲気にも包まれていた。

当日は朝から小雨がぱらつき、あいにくの天気。午後からさらに風雨が強くなることが懸念され、急遽、全行程を前倒しすることが決定された。



天皇陛下がご自分で窓を開けられ、手を振られるお姿はテレビニュースでも取り上げられた。



島内は歓迎ムード一色。写真は旧役場庁舎前の横断幕。

11時20分、予定より数分早く、両陛下が沖永良部島より特別機で御到着。

与論空港では、日の丸を手に色とりどりの雨具を着た子どもたちや伝統の「大島紬」の着物を着た皇居勤労奉仕団の方々が、今か今かと御到着を待っていた。

空港からお姿が見えるという一層、歓迎の声は大きくなった。

両陛下はお顔が見えるところまで歩み出て立ち止まり、手を振り返して応えて下さった。

2017, 11, 17. 奉迎天皇皇后両陛下：与論島



揃いの「大島紬」を見事に着こなした皇居勤労奉仕団の皆さん。

百合ヶ浜 展望休憩所

百合ヶ浜を眺め、 会話を楽しまれる両陛下



お二人寄り添いながら、興味深げに百合ヶ浜をご覧になる



小雨の中、皇后陛下をお気遣いになりながら歩く天皇陛下



沖合に百合ヶ浜を確認することができた

天皇・皇后両陛下の乗ったバスはコースタルリゾートから旧役場庁舎前を通り、与論発電所、与論中学校、与論小学校と沿道からの歓迎に応えながら、百合ヶ浜展望休憩所前で停まった。

小雨は降っていたが、バスを降りて海を望み、両陛下に「百合ヶ浜」をご確認いただくことができた。

きれいなまま 保たれているわけですね、と感心

説明をする山元宗町長に天皇陛下が「海の汚染はありませんか」「砂が減ってくることは」などと質問をされ、「きれいなまま保たれているのですね」と感心されていた。

町が用意した百合ヶ浜の写真パネルや、「星の砂」をルーペでご覧

になりながら、歳の数だけ星砂を拾うと幸せになれるという言い伝えに「八十集めるのは大変ですね」とほほえまれた皇后陛下。

生物にお詳しい陛下が星砂と太陽の砂について皇后陛下に説明されるなど仲睦まじいお姿も。

バスに戻られる際、内地では珍しいモンパノキの前で足を止められた陛下。「この木は何の木？」と質問されるなど、島で初めて見る景色に、ご興味深くされる様子が印象的であった。



指の先は、観光客で賑わう青空の百合ヶ浜。小雨を気に留めず乗り出してご覧になれる陛下に、慌てて傘を差しだす場面も。



与論町で用意した双眼鏡で百合ヶ浜をご覧になる両陛下。
「人がいますね」「砂を拾っているのね」と楽しそうに会話を交わされていた。



与論十五夜踊り

熱心にご覧になられ、踊り手にもお声掛け

続いて、与論民俗村、古里一直線、那間こども園前を通り、与論町地域福祉センターへ。
昼食後、450年以上続く国の重要無形民俗文化財の「与論十五夜踊り」をご覧になった。

「与論十五夜踊り」

島の平穏と五穀豊穡を祈り豊年祭で奉納される与論の伝統舞踊。
豊年祭は、現在も年に3回（旧暦3月・8月・10月の15日）地主・琴平神社にて行われている。



会場には、踊り手の家族も招待された



与論十五夜踊りをご覧になる両陛下

天皇・皇后両陛下にご覧いただくために、この日特別に「保存会」のメンバーにより披露。
両陛下は説明者の山元宗町長や麓才良会長（与論町文化財保護審議会）に踊りの意味などご質問をしながら熱心にご覧になられた。
演技を終えたメンバーのもとへ、天皇・皇后両陛下が歩み寄り、お声をかけられた。『嶋中安穩』の旗持ちに「重いでしょ」とお声を



大和風「一番組」の踊り



琉球風「二番組」の踊り



雨乞いや恋の踊りの演目を披露



踊り手へ盛んに拍手を送られる両陛下



かけ、「前が見えないです」と応えると「他の方は見えるの」「見えます」などとメンバーとの会話を楽しまれた。お面などの道具にも興味を持たれ、実際に触られる場面も見られた。

限られた時間の中、去り際には両陛下から「楽しかったです。ありがとうございました」とお礼の言葉を頂き、与論島にとって大変誇らしい時間となった。



旗を振って歓迎。与論高校前



空港ではこどもたちがお見送り



歓迎のパネルを自作するところもあった



高校前で横断幕を掲げ両陛下を待つ生徒たち



旧役場庁舎前に掲げられた歓迎の垂れ幕



沿道で説明を受けている皆さん



福祉センター前で横断幕を掲げ両陛下を待つこどもたち



福祉センターの前で歓迎の声に応える両陛下

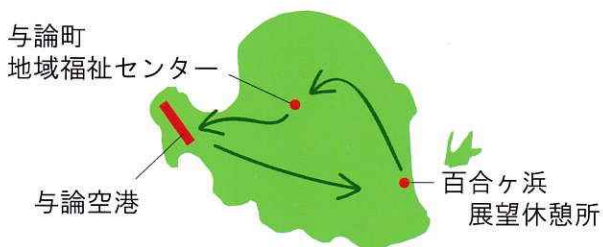
行幸啓 御日程

第1日目 11月16日(木)

皇居発→東京国際空港→鹿児島空港→
屋久島空港→屋久島町総合センター→
屋久島空港→沖永良部空港
〈お泊所〉 おきえらぶフローラルホテル

第2日目 11月17日(金)

ホテル発→沖永良部空港→
与論空港→百合ヶ浜展望休憩所→
与論町地域福祉センター→与論空港
→沖永良部空港
〈お泊所〉 おきえらぶフローラルホテル



第3日目 11月18日(土)

ホテル発→知名町花き生産者圃場→
和泊町立国頭小学校→和泊町役場→
沖永良部空港→鹿児島空港→
東京国際空港→皇居着

平成29年11月17日。天皇・皇后両陛下が、我が与論に行幸啓くださいました。当日はあいにくの小雨のため、急遽予定を変更してバスでの巡幸に。私も両陛下と同じバスに乗りご案内することになりました。

空港を出てバスに乗られた天皇陛下は、硬い窓を自ら開けられ、早速手を振られました。従長が「陛下お座りください。危ないですから」と再三申し上げても、「大丈夫」と答えられ、右へ左へと移動して手を振られました。「軽井沢の写真よ」「奉仕隊のタオルを振って

いる」「おばあさんも…」と美智子皇后。眺めるのではなく一人一人に慈しみの目を向けられる両陛下のご様子、慈父・慈母のお姿を拝み目頭が熱くなりました。

植物にお詳しい陛下は、道々の木の名前、在来種かどうかお尋ねになったり、戦争中の島民の苦勞に思いを馳せたりと、優しい言葉をかけてくださいました。

百合ヶ浜展望所では、海の美しさ、浜の白さを愛でられ、星砂をルーペでご覧になり陛下自ら美智子皇后に説明されるなど、ほほえ

ましい光景でした。

福祉センターでは、与論十五夜踊りをご覧頂きました。踊り子一人一人に声を掛けられ、お面についても熱心にお尋ねになりました。

天候の悪化のため予定より早く沖永良部島に帰りましたが「陛下、屋上で奉仕隊の皆さんが見送っております」と申し上げると、振り返られて「ありがとうございます」と手を振られる優しさ、この国に生まれた幸せ、両陛下をお迎えした幸せをかみしめた一日でした。

与論町長 山元宗



空港屋上から見送る島民を振り返り、タラップを上る直前まで手を振ってくださった両陛下

天皇・皇后両陛下 与論空港御発

お見送りに 最後まで笑顔で

14時27分、与論十五夜踊りをご覧になられた天皇・皇后両陛下は、御料車に乗り換えて与論町地域福祉センターを後にした。

両陛下が空港に向かうまでの15分間の道のりは、雨も上がり、沿道には多くの人が集まって最後のお見送りをすることが出来た。

ゆんぬかていうあうちたばうち

みつしくとくとうがなし

(与論にお越しくださいまして、誠にありがとうございます)

与論空港建物の屋上に掲げられた横断幕を振り返り、最後まで笑顔で手を振ってくださった両陛下は、当初の予定を約一時間縮めた日程で、14時50分、与論空港から特別機で宿泊先のある沖永良部空港へ飛び立たれた。

与論島での滞在は約3時間半と慌ただしかったが、島民の心に、忘れられない一日となったであろう。

ゆんぬかていうあうちたばうち
みつしくとくとうがなし

(右下写真の横断幕より)



御料車が飛行場へ到着



お見送りの福地議会議長と挨拶を交わされる両陛下



最後まで手を振って応えてくださった



沖永良部空港へ向けて特別機で御出発。
翌日（最終日）は知名町の花き生産者園場で
テッポウユリをご覧になったり、和泊町の
国頭小学校で黒砂糖づくりの授業をご覧になった。



広報よろん 特別号

発行年月 平成 30 年 8 月

発行・編集 与論町役場 総務企画課

〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 32-1

TEL 0997-97-3111 (代) FAX 0997-97-4197

URL <http://www.yoron.jp> E-mail sy-kouhou@yoron.jp